群教セ	G05- 03
	平22.242集

音楽づくりにおいて
イメージした思いを表現できる指導の工夫

── 思考・判断を助ける三種類のシートを活用して ──

長期研修員　　新井　敦子

《研究の概要》

本研究は、小学校音楽科音楽づくりにおいて、児童が「こんな音楽をつくりたい」という思いを表現できる指導を工夫したものである。具体的には、つくりたい音楽のイメージを明確にし、聴く活動から感じ取った「音楽の仕組み」を手掛かりとして、即興的にふしをつなげる活動をすることによって音を音楽に構成する能力を育成する。以上を踏まえ、思考・判断しながらイメージした思いを表現できる指導の工夫を図った。

キーワード　【音楽一小　音楽づくり　思いを表現　音楽の仕組み】

Ⅰ　主題設定の理由

「思いや意図をもって表現したり味わって聴いたりする力を育成すること」や「音や音楽の特質を感じ取り、思考・判断する力の育成を一層重視すること」が、中央教育審議会答申（H20.1）において、改善の基本方針として示されている。一方、児童の実態として、旋律をつくって表現することや、つくった音楽を楽譜などで表す力が不足していることが国立教育政策研究所の調査で明らかになっている。その背景として、音楽科の授業が楽曲を仕上げることを目的としている傾向にあることや、創作の学習指導に関して、教師自身が苦手意識をもっており十分な指導を行っていないのではないかという指摘がある（H17.9　中央教育審議会、配布資料）。

これらを踏まえ、小学校音楽科表現領域の音楽づくりにおいて、思考・判断しながらイメージした思いを表現できる指導の工夫が必要であると考えた。小学校学習指導要領音楽編では、「『音楽の仕組み』を手掛かりとして音楽づくりをすること」とある。「音楽の仕組み」は、表現及び鑑賞に関する能力を育成する上で共通に必要となるものとして新たに示された〔共通事項〕に含まれる指導項目の一つである。そこで、児童自身が、音楽をつくっていく上で必要な、音を音楽に構成する能力を身に付けるために、聴く活動によって「音楽の仕組み」を感じ取ることとした。これを感じ取り、音を音楽に構成する能力を身に付けることによって、思考・判断しながらイメージした思いを表現できると考えた。

本研究ではまず、既習の知識や経験、興味・関心を基に考えたテーマから、思い浮かぶ様子を言葉で具体化する。それらの言葉から、「こんな音楽をつくりたい」という具体的なイメージをもつことによって思いを明確にすることができると考えた。次に、体を動かす活動や、即興的にふしをつなげる活動を通して「音楽の仕組み」に含まれる「問いと答え」「反復」「変化」を感じ取り、音を音楽に構成する能力を育てる。その上で、イメージした思いを音楽で表現するために選んだ音やリズムを用いてつくったふしを、「問いと答え」「反復」「変化」を手掛かりに、つなげ方を試行しながら音楽を構成していく。以上の活動を通して、児童は、思考・判断しながらイメージした思いを表現できると考え、本主題を設定した。

Ⅱ　研究のねらい

音楽づくりの過程において、既習の知識や経験、興味・関心からつくりたい音楽のイメージをもち、聴く活動を通して感じ取った「音楽の仕組み」を手掛かりとして音楽を構成していくことにより、思考・判断しながらイメージした思いを表現できることを、実践を通して明らかにする。

Ⅲ　研究の見通し

1　既習の知識や経験、興味・関心を基にテーマを考え、思い浮かぶ様子を「イメージシート」に言葉で記入し、そこから自分がつくりたい音楽のイメージをもつことによって、自分の思いを明確にすることができるであろう。

2　楽曲を聴きながら体を動かす活動を取り入れたり、友達がつくったふしを聴きながら即興的にふしをつなげたりする活動場面で、「音の組み立てシート」を活用することによって、「音楽の仕組み」を感じ取り、音を音楽に構成する能力を育てることができるであろう。

3　自分のイメージを音楽で表現するために選んだ音やリズムでつくったふしを試奏しながら聴き取り、「音楽の仕組み」を手掛かりに思考・判断しながら「つながりシート」を作成していくことによって、自分の思いを音楽で表現できるであろう。

Ⅳ　研究の内容

1　基本的な考え方

(1)　音楽づくりとは

小学校音楽科において、表現領域（歌唱・器楽・音楽づくり）３分野の中の一つであり、児童が自らの感性や創造性を働かせながら音楽をつくる活動である。「こんな音楽にしたい」という自分の思いを明確にし、試行錯誤しながら音楽をつくっていく過程は、現在の教育に求められている「思考力・判断力・表現力」を陶冶できるものと考える。学習指導要領解説音楽編では、音楽づくりにおいて、「音を音楽に構成する能力を育てること」が指導のねらいとして挙げられている。このことから「音楽の仕組み」に着目する必要がある。また、小学校段階で、児童が音を音楽に構成する能力を発達段階に応じて身に付け、音楽をつくる楽しさや充実感を味わうことは、中学校学習指導要領において創作の内容として重要な位置を占めている旋律をつくる活動につながるものである。そこで、本主題にかかわる系統を表１のように設定した。この系統を踏まえて、実践を行えば「音を音楽に構成する能力」を着実に育てることができると考える。

表1　本主題にかかわる系統

「音楽の仕組み」を手掛かりに、思いを音楽で表現することについて				
	育てる力	活動例	「音楽の仕組み」	聴く活動
低学年	○それぞれの音を関連付けて楽しみながら、一つのまとまりを形づくる。	・わらべうたに使われている音を用いて「問いと答え」のような短い旋律をつくる。 ・自分のイメージを基に短いリズムをつくる。 ・つくったリズムを「反復」したりつないだりしながら、簡単な音楽をつくる。	○反復 ○問いと答え	・楽曲を聴くことによって「音楽の仕組み」を感じ取る。 ・友達の音を聴きながら、即興的に音をつなげる。
中学年	○「音楽の仕組み」を手掛かりとして、音楽の始め方や終わり方を意識しながらまとまりのある音楽をつくる。	・「問いと答え」になるようなリズムや旋律をつくる。 ・つくった音楽を「反復」「変化」させる。 ・５音音階などを使って自分がイメージした思いを基に、簡単なふしをつくる。 ・言葉をリズムに乗せてつなげる。	○反復 ○問いと答え ○変化	・楽曲を聴くことによって「音楽の仕組み」を感じ取る。 ・友達の音を聴きながら、即興的に音をつなげる。 ・「音楽の仕組み」のよさや面白さに関連させて友達がつくった音楽を聴く。
高学年	○自分の思いを表現できるように、「音楽の仕組み」や他の音楽の要素を使って、まとまりのある音楽をつくる。	・自分のイメージに合う音階を用いて旋律をつくる。 ・自分がつくった旋律に「反復」「変化」を加える。 ・自分の思いを表現するために、リズム・パターンを重ねたり、組み合わせたりする。 ・つくった旋律とリズム・パターンを組み合わせて、まとまりのある音楽をつくる。	○反復 ○問いと答え ○変化 ○音楽の縦と横の関係	・楽曲を聴くことによって「音楽の仕組み」を感じ取る。 ・友達の音を聴きながら、即興的に音をつなげる。 ・「音楽の仕組み」のよさや面白さを基に、友達同士でつくった音楽をよりよくする。

(2)　「音楽の仕組み」とは

音を音楽に構成するための手掛かりとして用いるものである。「音楽の仕組み」の具体的な指導事項として、「反復」「問いと答え」（全学年）・「変化」（中・高学年）・「音楽の縦と横の関係」（高学年）が挙げられている。今回の音楽づくりの活動では、思考・判断しながら、自分の思いを表現していく。そのためには、「音楽の仕組み」のよさや面白さを感じ取りながらこれを理解することが必要である。

(3)　思いを表現できる指導について

「思いを表現できる」とは、「『こんな音楽をつくりたい』という自らの思いを、思考・判断しながら音楽で表現する力」と、とらえることにする。「イメージシート」への記入により明確にした自らの思いと、「音の組み立てシート」を活用することによって身に付けた、音を音楽に構成する能力を基に、思考・判断しながら「つながりシート」を作成する活動を通して、イメージした自分の思いを表現できるようにした。

①　自分の思いを明確にする「イメージシート」

「イメージシート」は、既習の知識や経験、興味・関心を基に考えたテーマから思い浮かぶ言葉を記入することによって、表現への願いや考えを引き出し、自分のつくりたい音楽のイメージを明確にするものである（図１）。その際に、総合的な学習の時間等で得た既習の知識や経験、興味・関心を生かして自分のテーマを考えることとした。実際に見る、触れる、感じる等の体験活動を伴ったり児童にとって身近であったりする学習を基にすれば、様子を表す言葉や、擬声語・擬態語による言葉を引き出しやすく、また、それらの言葉を手掛かりに、つくりたい音楽のイメージを明確にしやすいと考えたからである。さらに、共通に学習したことを基にしていれば、友達がつくった音楽を聴き合う際に、音楽のイメージを想像しやすいと考えた。このように、自分の体験活動を基に「イメージシート」を作成することにより、自分の思いを明確にすることができると考える。

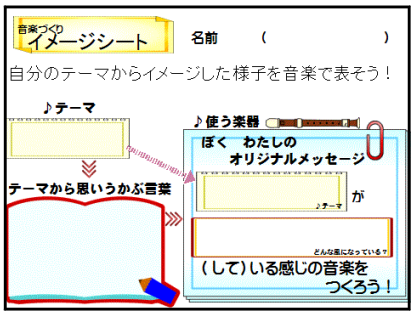


図１　イメージシート

②　「音楽の仕組み」を感じ取り、音を音楽に構成する能力を育てる「音の組み立てシート」

「音の組み立てシート」とは、「音楽の仕組み」を感じ取り、音を音楽に構成する能力を育てる活動の中で活用するものである（図２）。具体的には、まず、「音楽の仕組み」に含まれる「問いと答え」「反復」「変化」について、特徴のある楽曲を聴きながら「体を動かす活動」をすることによってこれらの働きを感じ取り、それを児童の言葉で、「感じ取れた『音の組み立て』」の欄に記入する。「体を動かす活動」は、これまでの「身体表現」「身体反応」を包括するものである。学習指導要領において指導のねらいに即して取り入れることが示されており、「音楽の仕組み」を感じ取るための有効な手だてであると考える。次に、感じ取った「音楽の仕組み」を手掛かりとして即興的に音をつなげる活動を行う。これは児童が、拍の流れの中で、即興的に考えたリズムと音を用いて演奏したふしに、「問いと答え」「反復」「変化」のいずれかを用いて相手の児童が即興的にふしをつなげるものであり、ペアで行う。即興的にふしをつなげられた場合、それぞれの欄に互いに○印を付け合う。このような即興的にふしをつなげるという短い活動の積み重ねは、音を音楽に構成するための様々な発想を得ることに有効であると考える。以上の活動を通して「音楽の仕組み」を感じ取り、音を音楽に構成する能力を育てることができると考える。

図２　音の組み立てシート

③　自分の思いを表現する「つながりシート」

「つながりシート」とは、身に付けた「音楽の仕組み」を手掛かりとして音楽を構成していくものである（図３）。使う音は、児童の実態を考慮して用いる。リズムは、低学年からの学習で馴染んできた「♩♩♩𝄾」と「♩♩♩♩」を基本とし、これらを自分のイメージに合わせて分割して用いる。まず「イメージシート」に記入した、つくりたい音楽のイメージに合う音やリズムを用いて、「問いと答え」を手掛かりに２小節のふしをつくる。次に、これを基にイメージした思いを表現するために、「反復」や「変化」をさせたり、新たに選

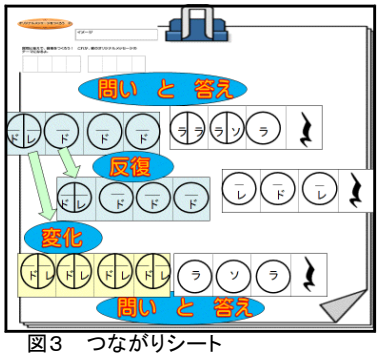


図３　つながりシート

んだ音やリズムを用いて「問いと答え」でふしをつくったりするなど「音楽の仕組み」を手掛かりにしてふしを組み合わせながら音楽に構成していく。その際、手掛かりとする「問いと答え」「反復」「変化」が視覚的に理解しやすいように３色に色分けしたカードを用いることとする。記譜においては、「イメージした思いを表現するために選んだ音やリズムを用いてつくったふしを、リコーダーで試奏しながら聴き取る」「聴き取ったふしをリズム譜に表す」「リズム譜に音を書き入れる」という手順を身に付けることによって、つくったふしを自分で記譜できるようにする（図４）。以上の活動を通して「つながりシート」を作成することにより、イメージした思いを表現できると考える。

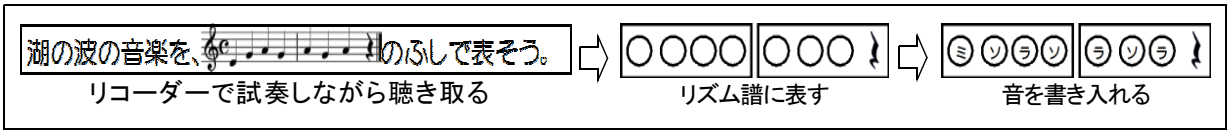
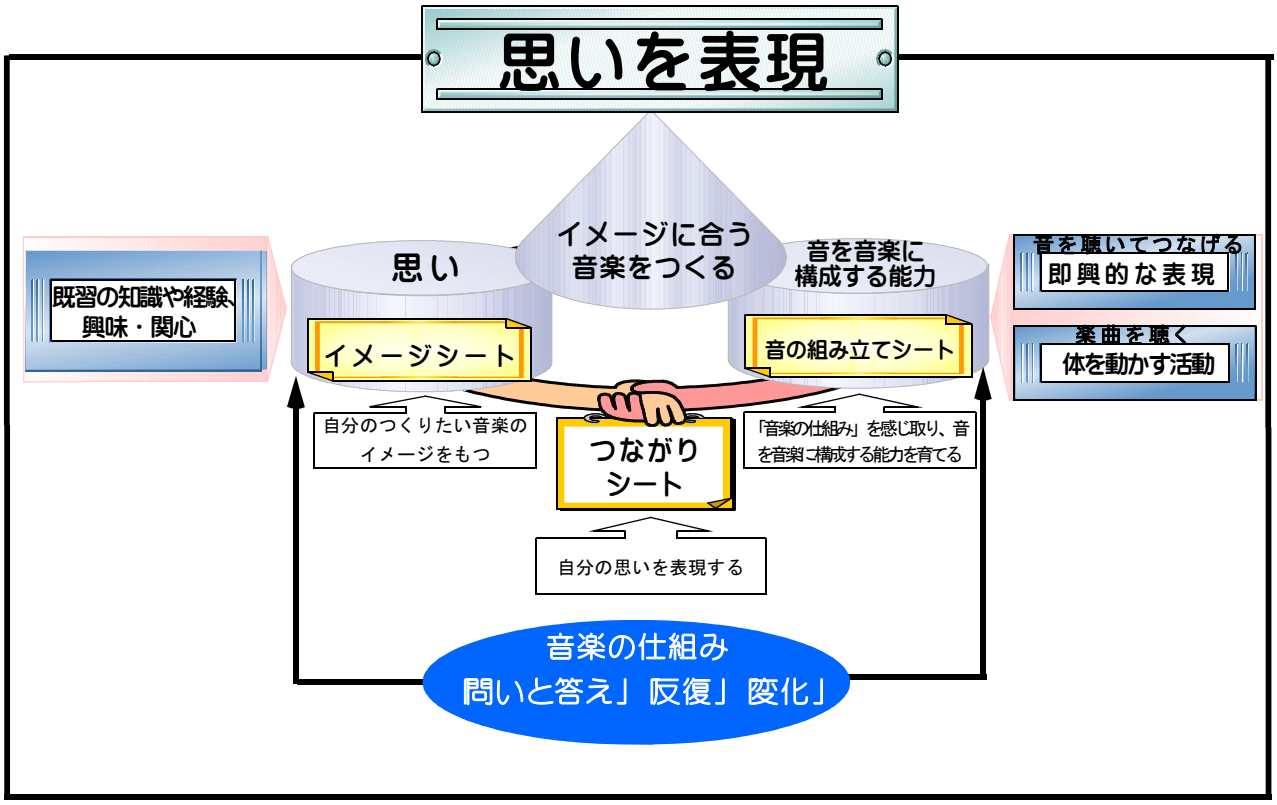


図４　記譜の手順

２　研究構想図



Ⅴ　研究の計画と方法

１　授業実践計画

対　象	小学校　　第４学年　　22名
期　間	平成22年10月１日～10月21日　　（６時間）
題材名	自分のイメージから音楽をつくろう
授業者	長期研修員　　新井敦子

２　抽出児童

児童Ａ	音楽づくりの学習に対して興味をもっていて、リズムや速さ等、音楽にかかわる要素を理解している。音楽を聴く時には、使われている楽器やリズムが変化している部分にも気を付けて聴くことができる。友達との交流場面で、知識や感じたことを引き出し、他の児童の参考にさせたい。
児童Ｂ	音楽づくりの学習に対して興味をもっているが、つくりたい音楽が思い浮かばないことや、記譜ができないという理由から、自分で音楽をつくることは難しいと考えている。つくりたい音楽のイメージをもち、「音楽の仕組み」を手掛かりにすることを通して、自分にも音楽がつくれるという達成感を味わわせたい。
児童Ｃ	音楽づくりの学習に対して苦手意識をもっていて、消極的である。「音楽の仕組み」を手掛かりに音を聴いたり即興的に表現したりする活動を通して、音を音楽に構成することができるように支援し、自分の思いを音楽で表現できるようにさせたい。

３　検証計画

	検証の観点	検証の方法
見通し1	既習の知識や経験、興味・関心を基にテーマを考え、思い浮かぶ様子を「イメージシート」に言葉で記入し、そこから自分がつくりたい音楽のイメージをもつことは、自分の思いを明確にすることに有効であったか。	○「イメージシート」への記入事項の考察 ・つくりたい音楽のテーマから思い浮かぶ、様子を表す言葉や擬態語・擬声語を記入しているか。 ・自分がつくりたい音楽のイメージを言葉で記入しているか。
見通し2	楽曲を聴きながら体を動かす活動を取り入れたり、友達がつくったふしを聴きながら即興的にふしをつなげたりする活動場面で、「音の組み立てシート」を活用することは、「音楽の仕組み」を感じ取り、音を音楽に構成する能力を育てることに有効であったか。	○学習活動の観察（授業における観察及びビデオによる分析） ・楽曲を聴き、体を動かす活動をすることによって、「音楽の仕組み」を感じ取っているか。 ○「音の組み立てシート」からの考察 ・即興的に音をつなげる活動をしたことが記入されているか。
見通し3	自分のイメージを音楽で表現するために選んだ音やリズムでつくったふしを試奏しながら聴き取り、「音楽の仕組み」を手掛かりに思考・判断しながら「つながりシート」を作成していくことは、自分の思いを表現することに有効であったか。	○学習活動の観察（授業における観察及びビデオによる分析） ・思考・判断しながら自分のイメージに合う音やリズムを選んでふしをつくっているか。 ○「つながりシート」からの考察 ・「音楽の仕組み」を手掛かりとしてイメージに基づいた音楽を構成しているか。

４　題材の目標及び評価規準等

目標	「音楽の仕組み」のよさや面白さを感じ取り、自分の思いをもって、音楽をつくることができる。			
	ア　音楽への関心・意欲・態度	イ　音楽的な感受や表現の工夫	ウ　表現の技能	エ　鑑賞の能力
題材の評価規準	「音楽の仕組み」に興味・関心をもち、イメージした自分の思いを表現する学習に進んで取り組もうとしている。	「音楽の仕組み」のよさや面白さを生かし、思考・判断しながら自分の思いを音楽で表現する工夫をしている。	「音楽の仕組み」を生かし、即興的に表現したり、音を音楽に構成したりしている。	「音楽の仕組み」を聴き取り、それらの働きのよさや面白さを感じ取って聴いている。
歌唱				
器楽				
創作	○	○	○	
鑑賞		○		○
具体の評価規準	①「音楽の仕組み」のよさや面白さに関心をもち、それらを生かして表現したり聴いたりする活動に自ら取り組もうとしている。 ②様子をイメージして音で表す事に関心をもち、音楽づくりへの見通しをもとうとしている。	①聴き取った「音楽の仕組み」のよさや面白さを生かして即興的な表現を工夫している。 ②イメージと「音楽の仕組み」を結び付けて音楽を工夫している。	①終わり方を意識してまとまりのある音楽をつくっている。 ②自分のイメージを基にリズムや音を選び、モチーフをつくることができる。	①「問いと答え」「反復」「変化」の働きのよさや面白さを感じ取りながら、楽曲の構造に気を付けて聴いている。

５　指導計画〈全６時間〉

時	○学習活動	共通事項	指導上の留意点 『使用する曲』（作曲者）	具体の評価規準 （評価方法）
〈第一次〉ねらい：総合的な学習の時間で得られた既習の知識や経験、興味・関心を基に「こんな音楽にしたい」という思いを明確にし、楽曲を聴くことによって感じ取った「音楽の仕組み」のよさや面白さを生かして音を音楽に構成していくことへの見通しをもつ。				
1	○総合的な学習の時間での学習テーマを基に、自分のイメージを音楽で表現することを知る。 ○自分がつくりたい音楽のイメージとその理由を交流し合う。		・どの児童にも共通に理解する既習事項をテーマとすることにより、つくった音楽を発表する時、聴き手の児童が作品の思いや意図を理解しやすいようにする。 ・総合的な学習の時間に扱った鳴沢湖の風景を、写真で提示することによって、表現するテーマについて想起しやすくする。 ・交流し合うことによって、友達のよさを認め合うと同時に自分がつくりたい音楽への思いを明確にできるようにする。	ア② （行動観察、「イメージシート」への記入）
2	○「音楽の仕組み」に気付き、その働きのよさや面白さを感じ取る。 ・「問いと答え」「反復」「変化」を感じ取り、そのよさや面白さに気付く。 ・「問いと答え」「反復」「変化」を手掛かりにして即興的に音をつなげる活動をする。	問いと答え 反復 変化	・楽曲を聴きながら、体を動かす活動をすることによって、「問いと答え」「反復」「変化」を感じ取ることができるようにする。 問いと答え：『春がきた』（高野辰之作詞・岡野貞一作曲） 『見よ、勇者は帰る』（ヘンデル） 反復：『シンコペーテッド　クロック』（アンダソン） 変化：『キラキラ星変奏曲』（モーツァルト） ・教師がウッドブロックで拍を刻み、拍の流れの中で音楽を表現することを意識できるようにする。 ・児童が即興的に音をつなげやすいように、使用する音は「ミ」「ソ」「ラ」の３音に限定する。	エ① （体を動かす活動の観察・「音の組み立てシート」への記入） イ① （即興表現の聴取）
〈第二次〉ねらい：「イメージシート」を基に、思考・判断しながら音やリズムを選び、「音楽の仕組み」を手掛かりとして「つながりシート」を作成することを通して、自分の思いを音楽で表現する。				
3	○自分の思いや意図を音楽にするための計画を立てる。 ・モチーフとなる２小節のふしをつくることを知る。 ○つくったふしを記譜する。 ○自分のイメージを基に、まとまりのあるふしをつくる。 ○つくったふしを発表し合う。	問いと答え	・体を動かす活動や聴く活動を通して身に付けた「問いと答え」を用いて２小節のふしをつくることを伝える。 ・使用する音は、３年次のおはやしの音楽の学習を踏まえ、「ミ」「ソ」「ラ」「ド」「レ」の５音とする。 ・「つくったふしを残しておくにはどうしたらよいか」を問いかけることにより、児童から「書いておく」という考えを引き出す。 ・「ふしを聴く」「リズム譜を書く」「音を書く」という手順を身に付け、つくったふしを聴き取り記譜できるようにする。 ・リコーダーでふしの流れを確かめながら自分のイメージに合うふしをつくれるようにする。 ・自分の音楽のイメージを明確にしたり、友達がつくったふしのイメージを想像したりできるようにする。	ウ② （行動観察・表現聴取）
4	○「音楽の仕組み」を手掛かりとして、音楽をつくる。 ・「問いと答え」「反復」「変化」の働きを確認する。 ・モチーフである２小節のふしを基に、音楽を構成する。 ・リコーダーで試奏ながらイメージに合う音楽をつくり、記譜する。	問いと答え 反復 変化	・つくる音楽は、児童の実態を考え６小節とする。 ・即興的な表現をすることにより、「音楽の仕組み」を手掛かりとして音楽を構成する方法を確認する。 ・３色のカードを用意し、つくっている過程の音楽の構成が視覚的に分かりやすいようにする。 ・カードの色は「問いと答え」を『水色と白』、「変化」を『黄色』、「反復」を『もとのカードと同色』とする。 ・「イメージカード」を振り返りつつ、使う音やリズムを試し、思考・判断しながら音楽を構成していけるよう、声をかける。	イ② （行動観察・「つながりシート」の作成）
5	○グループで中間発表をする。 ・最後の２小節を演奏し、「終わり方」を意識して聴き合う。 ・友達の意見を参考に、終わる感じになるように改善する。	問いと答え	・終わる感じを意識してまとまりのある音楽をつくることができるよう、最後の２小節のみの発表とする。 ・聴く観点を「音楽の終わり方が終わる感じであるか」とし、まとまりのある音楽をつくるための意識をもてるようにする。 ・友達同士で、つくったふしを聴き合い、リコーダーで試奏しながら「終わる感じ」のふしを検討し合うようにする。 ・「終わる感じ」を意識してふしをつくり直した場合は、自分の音楽を構成する過程を残しておくために、新しいカードに記譜し今までのカードの上に貼るようにする。	ウ① （表現内容・発言）
6	○つくった音楽を発表し合う。 ・自分がつくった音楽を発表する。 ・友達がつくった音楽のよさや面白さを伝え合う。	問いと答え 反復 変化	・よかった点について相互交流を図ることにより、お互いのよさを認め合う場を設定する。 ・つくった音楽のイメージや、そのイメージを音楽で表すためにどんな工夫をしたのかを、「音楽の仕組み」などを基に発表できるようにする。 ・「音楽の仕組み」などを基に、ワークシートに記入したり、言葉で伝えたりする。	ア① （表現内容・発言・自己評価カードへの記入）

Ⅵ　研究の結果と考察

1　既習の知識や経験、興味・関心を基にテーマを考え、思い浮かぶ様子を「イメージシート」に言葉で記入し、そこから自分がつくりたい音楽のイメージをもつことは、自分の思いを明確にすることに有効であったか。

(1)　全体の活動から

既習の知識や経験、興味・関心から選んだテーマから、思い浮かぶ言葉を記入した。次にその言葉を参考に、つくりたい音楽のイメージをもつことを促した。テーマから思い浮かんだ言葉の数の割合と、つくりたい音楽のイメージを明確にできた割合を図５に示す。全員がテーマから１つ以上の思い浮かぶ言葉を記入することができた。さらに、その言葉を基に全員の児童が、図６のようにつくりたい音楽のイメージをもつことができた。児童は、「イメージシート」を活用することによって、テーマから思い浮かぶ言葉を引き出し、その言葉を参考につくりたい音楽のイメージをもつことにより、自分の思いを明確にできたと言える。以上から、既習の知識や経験、興味・関心を基にテーマを考え、思い浮かぶ様子を言葉で「イメージシート」に記入し、そこから自分がつくりたい音楽のイメージをもつことは、自分の思いを明確にすることに有効であったと言える。

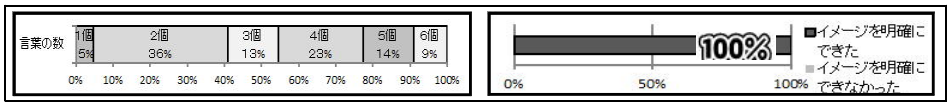


図５　テーマから思い浮かんだ言葉の数の割合とつくりたい音楽のイメージを明確にできた割合

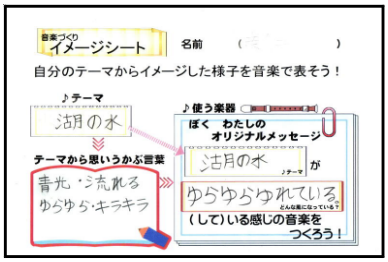


図６　児童のイメージシート

(2)　抽出児童の「イメージシート」への記述から

抽出児童のイメージシートへの記述を表２に示す。児童Ａ、児童Ｂは、テーマから思い浮かぶ言葉を五つずつ書き、その中から言葉を選び、つくりたい音楽のイメージをもつことができた。児童Ｃは、テーマから思い浮かぶ言葉は一つであった。その理由として、言葉での表現力が十分ではないことが考えられるが、思い浮かんだ言葉からつくりたい音楽のイメージをもつことはできた。以上から、抽出児童において、「イメージシート」を活用することは有効であったと言える。

表２　抽出児童における「イメージシート」への記述

	児童Ａ	児童Ｂ	児童Ｃ
テーマ	カワセミ	小さい魚	魚
テーマから思い浮かぶ言葉	・ゆうがに飛ぶ　・きれいな声 ・きれいな羽　・かわいい ・小さい	・はねる　・テンションが高い ・元気よく泳ぐ　・おどるように泳ぐ ・ゆったり泳ぐこともある	・のんびり泳ぐ
つくりたい音楽のイメージ	○きれいな羽のカワセミが、きれいな声でゆうがに飛んでいる感じの音楽	○小さい魚が、元気よく泳いでいる感じの音楽	○魚が、のんびりと泳いでいる感じの音楽

2　楽曲を聴きながら体を動かす活動を取り入れたり、友達がつくったふしを聴きながら即興的にふしをつなげたりする活動場面で、「音の組み立てシート」を活用することは、「音楽の仕組み」を感じ取り、音を音楽に構成する能力を育てることに有効であったか。

(1)　全体の活動から

①　体を動かす活動場面で「音の組み立てシート」を活用することについて

「音楽の仕組み」に含まれる「問いと答え」「反復」「変化」について、特徴のある楽曲を聴きながら体を動かす活動を行った（図７）。楽曲を聴きながら「問いと答え」「反復」「変化」の部分で体を動かす活動をすることによって、感じ取ったことを言葉で表現するように促した。「問いと答え」は、「話しかけている部分」と「答えている部分」を感じ取り「会話」という

図７　体を動かす活動

言葉で表現することができた。同様に、「反復」は、同じフレーズがあることを感じ取り「くりかえし」と表現することができ、「変化」は、主題と変奏の違いを感じ取り「へんしん」と表現することができた。感じ取ったことを基に表現した言葉は「音の組み立てシート」に記入することができた。「問いと答え」「反復」「変化」を普段使っている身近な言葉に置き換えられたことにより、児童にとって分かりやすく、また活用しやすいものとなった。また、95％の児童が「問いと答え」「反復」「変化」について、特徴のある楽曲を聴きながら体を動かす活動ができたことによって、これらを感じ取れたと考える（図８）。

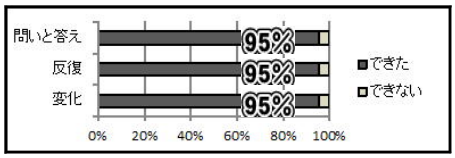


図8　体を動かす活動ができた割合

②　即興的に音をつなげる活動場面で「音の組み立てシート」を活用することについて

体を動かす活動によって感じ取った「問いと答え」「反復」「変化」を手掛かりとして、リコーダーを用いてペアで即興的に音をつなげる活動を行った（図９）。

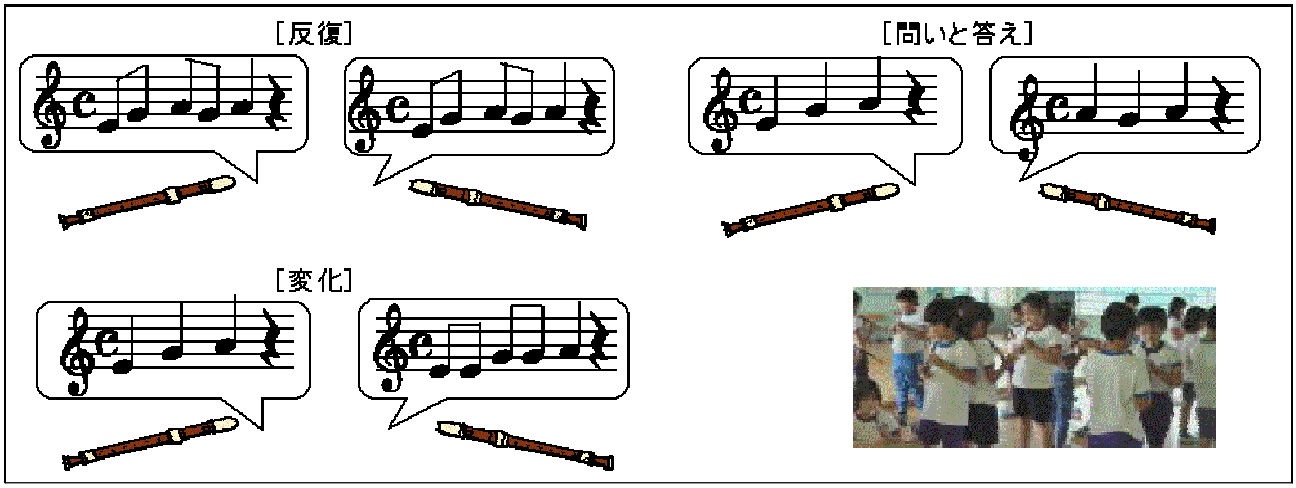


図9　ペアでの即興的にふしをつなげる活動例と、活動の様子

ここで使用する音は、児童が即興的にふしをつくりやすいように「ミ」「ソ」「ラ」の３音に限定し、「変化」については、児童が音楽をつくる時に活用しやすいように、リズムの分割による「変化」のみとした。即興的に音をつなげる活動ができた割合を図10に示す。全員の児童が、友達が演奏したふしに自分で考えたふしを即興的につなげる活動を行うことができた。これは、限定した３音から音を選び、リズムを考えて、ペアで即興的にふしをつなげられた場合、「音の組み立てシート」に○印を付け合うという交流活動を行うことにより、ふしのつながりを友達と確認し合ったり、音を音楽に構成するための様々な発想を得たりすることができたからだと考える。また、体を動かす活動を通して「問いと答え」「反復」「変化」を感じ取った後に、即興的に音をつなげる活動を行ったため、児童は何を手掛かりにどんな活動をするのか理解できていたからだと考える。

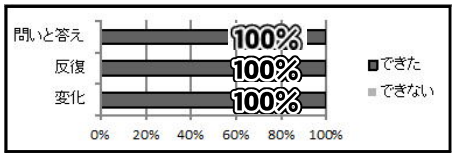


図10　即興的に音をつなげる活動ができた割合

「問いと答え」を手掛かりにして即興的にふしをつなげる活動では、まとまりのある音楽を意識できるように「答え」の部分は終止感がある音で終わるよう促し、これを「終わる感じ」とした。また、終止感が無い音で終わるふしを「続く感じ」とし、「終わる感じ」のふしと聴き比べる活動や、「続く感じ」と「終わる感じ」を意識してペアで即興的にふしをつなげる活動を行うことによって、これらを感じ取れる児童が増えていった。

以上の結果から、楽曲を聴きながら体を動かす活動を取り入れたり、友達のふしを聴きながら即興的にふしをつなげたりする活動場面で、「音の組み立てシート」を活用することは、「音楽の仕組み」を感じ取り、音を音楽に構成する能力を育てることに有効であったと言える。

(2)　抽出児童の活動から

ペアで「問いと答え」を用いて即興的にふしをつなげる活動場面において、児童Ａは、終止感を感じ取り「答え」の部分で「終わる感じ」のふしをつなげることができた。また、即興的に「終わる感じ」のふしをつなげられなかった相手に、「こんな感じにすれば」と終止感のあるふしを提案できた。児童Ｂ、児童Ｃは、「音の組み立てシート」に記入した「会話」「くりかえし」「へんしん」を手掛かりにして即興的にふしをつなげる活動をし、○印を付け合っていた。また、教師が演奏したふしに、「へんしん」を手掛かりにしてふしをつなげる場面で、児童Ｂは、「音がはねるようにしました」、児童Ｃは「音をはずませるようにしました」と説明し、全員の前で発表できた。よって、抽出児童において、「音の組み立てシート」の活用は有効であったと言える。

３　自分のイメージを音楽で表現するために選んだ音やリズムでつくったふしを試奏しながら聴き取り、「音楽の仕組み」を手掛かりに思考・判断しながら「つながりシート」を作成していくことは、自分の思いを表現することに有効であったか。

(1)　全体の活動から

①　「音楽の仕組み」を手掛かりに「つながりシート」を作成することについて

「つながりシート」は、「イメージシート」に記入したつくりたい音楽のイメージと、「音の組み立てシート」の活用によって身に付けた音を音楽に構成する能力を基に、各自で作成した。つくりたい音楽のイメージを表現するために、選んだ音やリズムでつくったふしを試奏しながら聴き取り、まとまりのある音楽として表現するために「音楽の仕組み」を手掛かりに思考・判断しながら「つながりシート」を作成した。イメージした思いを表現するために「音楽の仕組み」を手掛かりにできた割合を図11に示す。全員の児童が「問いと答え」を手掛かりにできた。また、90％以上の児童が「反復」「変化」を手掛かりにできた。授業後の児童の感想（表３）からは、「自分の思い通りの曲ができてうれしかった」「テーマを決めたらかんたんにつくれたので、また今度つくりたい」「思ったより曲をつくるのがかんたんでした」等の記述が見られたことから、児童が「つながりシート」を作成していくことによって、「音楽の仕組み」を手掛かりとして自分の思いを表現できたと言える。また、自分のイメージを音楽で表現することに対しての充実感を味わうことができたと考えられる。以上の結果から、自分のイメージを音楽で表現するために選んだ音やリズムでつくったふしを試奏しながら聴き取り、「音楽の仕組み」を手掛かりに思考・判断しながら「つながりシート」を作成していくことは、イメージした思いを表現することに有効であったと言える。

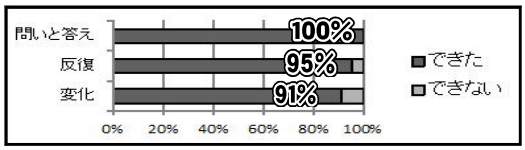


図11　「音楽の仕組み」を手掛かりにできた割合

表３　児童の感想

- 自分の思い通りの曲ができてうれしかったです。また自分で音楽をつくってみたいです。
- テーマを決めたらかんたんにつくれたので、また今度つくりたい。今度は長い曲をつくりたい。
- まさか自分で音楽がつくれるなんて思ったことがなくて、この勉強で自分の音楽がつくれたのでよかったです。
- 家でも「へんしん」や「会話」や「くりかえし」を使ってオリジナルメッセージをつくってみたいです。
- 思ったより曲をつくるのがかんたんでした。音楽ができたときはすごくうれしかったです。
- 家族に自分がつくったオリジナルメッセージを聞かせてあげたい。
- 最初は、自分で音楽がつくれるか心配でしたが、かわいい花がそよそゆれている感じの音楽がつくれたと思います。

②　「問いと答え」を手掛かりにまとまりのある音楽をつくることについて

全員の児童が「問いと答え」を手掛かりにできたが、まとまりのある音楽をつくることとしたため、「問いと答え」を手掛かりとして構成した最後のふしを終止感のある「終わる感じ」にすることができた児童は、１回目が36％、２回目が68％であった（図12）。これは、１回目は個人で音楽をつくり、２回目は中間発表におけるグループでの検討後「終わる感じ」を意識できるようになった児童が増えたためと考えられる。

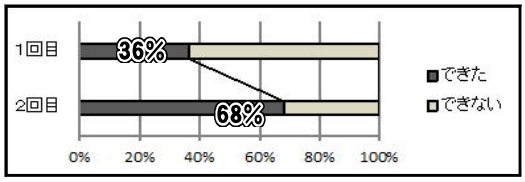


図12　「終わる感じ」でふしを構成した割合

(2) 抽出児童の変容と感想から

抽出児童の学習前後における変容と学習後の感想を表４に示す。児童Ａ、児童Ｂ、児童Ｃにおいて、またつくりたいという今後の活動への意欲が記述されている。これは、「音楽の仕組み」を手掛かりにすれば、自分がイメージしたことが音楽で表現できるということを実感できたからだと考える。よって抽出児童にとって、「つながりシート」の作成は有効であったと言える。

表４　授業前後における変容と学習後の感想

	児童Ａ	児童Ｂ	児童Ｃ
学習前の記録	**問：じぶんで曲をつくってみたいですか。**　①つくってみたい　②どちらかといえば、つくってみたい　③あまりつくってみたくない　④つくってみたくない		
	①つくってみたい	②どちらかといえば、つくってみたい	③あまりつくってみたくない
学習後の記録	**問：自分のイメージを音楽であらわすことができましたか。**①できた　②まあまあできた　③あまりできなかった　④できなかった		
	①できた	②まあまあできた	①できた
	感想 始めに曲を作る時は、なかなかできないなと思っていたけれどくりかえしやれば、鈴琴などをおぼえていくうちにだんだんおもしろくなってきたが期には、とてもいい曲が作れてとてもよかった。またオリジナルメッセージを作りたくなった。	感想 とっても楽しく曲がつくれるものだとはしらなかった。また自分のオリジナルの曲を作ってみたい。それから家族に自分の作ったオリジナルメッセージを聞かせてあげたい。	感想 ぼくは、始めて曲をつくるのがむずかしかったけどさいごには自分の曲ができてよかったです　また自分で音楽をつくって見たいです

Ⅶ　研究のまとめ

１　成果

各シートの活用は、思考・判断しながらイメージした思いを表現するために次のように有効であった。

○　「イメージシート」の活用によって、児童はつくりたい音楽のイメージをもち自分の思いを明確にすることができた。

○　「音の組み立てシート」の活用によって、児童は「音楽の仕組み」を感じ取り音を音楽に構成する能力を育てることができた。

○　「つながりシート」の活用によって、児童は明確にした自分の思いと音を音楽に構成する能力を基に、「音楽の仕組み」を手掛かりとしてイメージした思いを音楽で表現することができた。

２　課題

○　楽曲を聴き、「音楽の仕組み」にかかわる部分で自ら体を動かす活動に取り組むことができず、周りの児童の動きを見て、同じように体を動かす活動をしていた児童がいた。これは、楽曲から「音楽の仕組み」を聴き取ることができなかったり、体の動かし方が分からなかったりしたことが考えられる。「音楽の仕組み」を手掛かりとして構成されていることを感じ取りながら楽曲を聴く活動を計画的に取り入れていく必要がある。

○　「問いと答え」を手掛かりとして終止感を意識したまとまりのある音楽をつくることができなかった児童が、32％いた。これは、終止感を感じ取ることができなかったためであり、このことを意識して楽曲を聴いたり即興的に音をつなげたりする活動を計画的に取り入れていく必要がある。

○　児童が、音楽づくりにかかわる基礎的な能力を発達段階に応じて身に付けることができるよう、系統性のある指導計画を作成し、中学校での「創作」につながるようにする。

＜参考文献＞

・安彦　忠彦　監修　『小学校学習指導要領の解説と展開』　教育出版(2008)
・坪能　克裕　坪能　由紀子　髙須　一　熊木　眞見子　中島　寿　髙倉　弘光　駒　久美子　味府　美香　著　『鑑賞の授業づくりアイディア集』　音楽之友社(2009)
・山本　弘　原著　『ふしづくりで決まる音楽能力の基礎・基本』　明治図書(2005)